

USB/eSATAスケジュールバックアップモジュール使用方法

USB/eSATAスケジュールバックアップモジュールを使って、NASと外付けハードディスク間で共有フォルダーをバックアップ/復元できます。

対象製品

N-RAID 5500Kシリーズ/Thecus NAS(ヤノモデル/ファームウェアのバージョン:v5.xx.xx)
※ZFSフォーマットには対応していません。

オリジナル版との違い

- ・タスク数の制限を5個から20個に拡張しました。
- ・タスクのダウンロード/アップロード機能を追加しました。
- ・「USB/eSATA機器の取り外し」ボタンを追加しました。
- ・日本語表示にしました。
- ・メール通知設定においてログレベルを指定しているにも関わらず、全てのレベルのログが送信されてしまう問題を修正しました。
- ・ログを保存する機能を追加しました。
- ・万が一動作に問題が発生した際、30分以内に解決されない場合はタイムアウトするように修正しました。
- ・タスクを作成した時にバックアップ元のファイル数を計上しないように修正しました。
- ・ユーザー名が「123」など数字のみの場合、ACL情報を復元しても実際に反映されない問題を修正しました。
- ・差分バックアップの復元方法を以下の通り修正しました。
 - ・復元先の共有フォルダーのACLを反映(再帰)
 - ・バックアップされた共有フォルダーのACLを反映(再帰)

バックアップ先のハードディスクの準備

- ・バックアップ先に設定されていた外付けハードディスクをNTFSもしくはEXT4、XFS形式でフォーマットします。
 - ※フォーマットを行う場合は、別途「USB/eSATAフォーマットモジュール」をご利用ください。
「USB/eSATAフォーマットモジュールは以下のURLよりダウンロードできます。
(<http://www.yano-sl.co.jp/download/soft/index.html>)
 - ※NTFSフォーマットについてはWindowsXP以降でもフォーマットできます。
- ・バックアップ先のハードディスクの空き容量は、バックアップ元のNASのデータ容量と同じ、もしくはそれより大きい必要があります。
- ・バックアップ先のハードディスクを起動完了後のNASのUSBまたはeSATAポートに接続してください。
- ・GPTパーティションのハードディスクをNASのUSBポートに接続したままNASの起動/再起動を行うと、起動途中(Self Testing)で止まってしまうため、起動完了後に接続してください。
(eSATAポートに接続した場合は、問題ありません)
- ・複数の外付けハードディスクをUSBで接続する場合、NASのUSBポートの場所ごとにフォルダー名が決まっています。
(共有フォルダー「usbhdd」内のフォルダー名に「usb1～5」で作成されます。)

USB/eSATA スケジュールバックアップモジュールのインストールと有効化

Step1 モジュールを確認する

ログイン

1. WebブラウザでNASのIPアドレスをアドレスバーに入力します。
2. パスワードを入力してadmin画面にログインします。

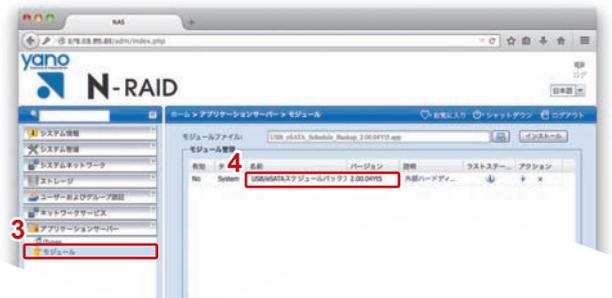
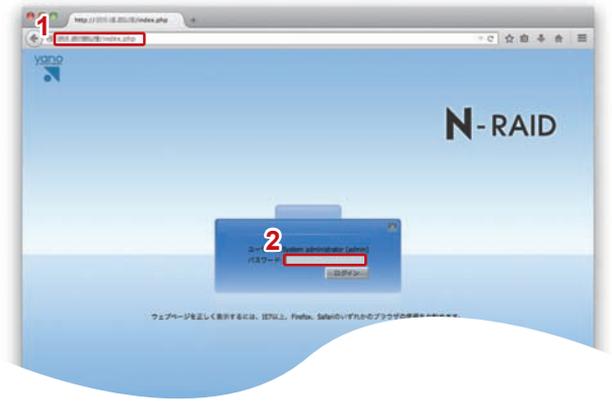
ホーム

3. 「アプリケーションサーバー」から「モジュール(のインストール)」をクリックします。

ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール(のインストール)

4. 右側の【モジュール管理】に、「USB/eSATAスケジュールバックアップ」のバージョン「2.00.04Yt5」が表示されている事を確認します。表示されている場合は、「Step4:モジュールを有効化する(本紙P.3)」へ、表示されていない場合は、「Step2:モジュールをダウンロードする」へお進みください。

※画面はN-RAID 5500Kシリーズのもので。



Step2 モジュールをダウンロードする

モジュール(USB_eSATA_Schedule_Backup_2.00.04Yt5.app)は、弊社Webサイトよりダウンロードしてください。

■ http://www.yano-sl.co.jp/download/soft/nas_usb_esata_schedule_backup_v20004y.html

※ ダウンロード方法の詳細は弊社カスタマーサポートまでお問い合わせください。

※ 「USB_eSATA_Schedule_Backup_2.00.04Yt5.app」は「USB_eSATA_Schedule_Backup_2.00.04Yt5」フォルダーに入っています。

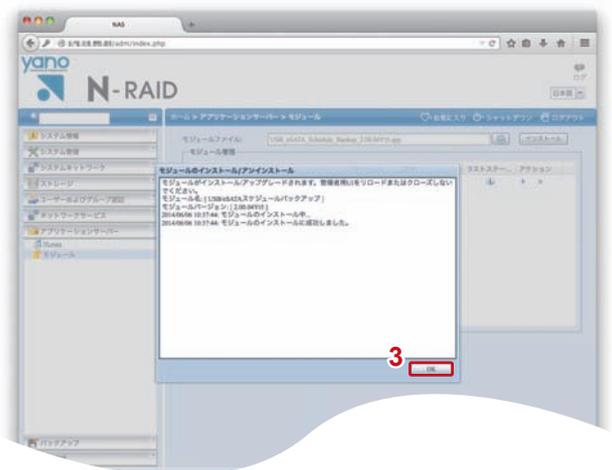
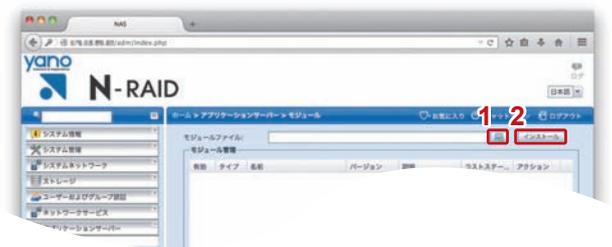
Step3 モジュールをインストールする

ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール(のインストール)

1.  ボタンをクリックし、ダウンロードしたモジュールファイル(USB_eSATA_Schedule_Backup_2.00.04Yt5.app)を選択します。

※ 既に旧バージョンのモジュールをご使用の場合、新バージョンに上書きされます。その際、既存のタスク情報は保持されます。(「ログ保存」にチェックが入っておりません。必要に応じて編集してください。)

2. 「インストール」ボタンをクリックします。
確認メッセージが表示されるので、「Yes」をクリックします。
3. インストールが開始されます。
確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



Step4 モジュールを有効化する

ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール(のインストール)

1. 右側の【モジュール管理】の中に表示されている「USB/eSATAスケジュールバックアップモジュール」のアクションボタン「▶」をクリックします。

確認メッセージが表示されるので、「Yes」をクリックします。



バックアップの手順

NASの共有フォルダーと中身のデータを外付けハードディスクへバックアップします。

※ Windows PCの場合、IEのバージョンによって画面のレイアウトが崩れることがあります。

その際は、IEの互換表示リスト(メニュー「ツール」>互換表設定>追加するWebサイト)にNASのIPアドレスを追加してください。

Step1 バックアップを設定する

ホーム

1. NASの管理画面「アプリケーションサーバー」から「モジュール(のインストール)」をクリックします。

ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール(のインストール)

2. 「USB/eSATAスケジュールバックアップモジュール」をクリックします。

(タスクの作成や編集を行うための新しいウィンドウが開きます。)

設定ウィンドウ

3. 「追加」をクリックします。

4. 以下の内容をそれぞれの項目に入力します。

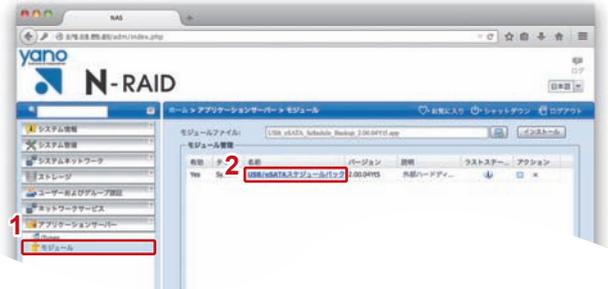
タスク名	バックアップ管理用の名称を入力します。
コメント	バックアップの注釈を入力します。 (入力必須項目ではありません)
ターゲットデバイス (USB/eSATA機器)	USBもしくはeSATAで接続している バックアップ先のハードディスクを選択します。
バックアップ方法	完全一致バックアップの場合は【同期】、 増分バックアップの場合は【差分】を選択します。
バックアップ元の共有フォルダー	バックアップ元の共有フォルダーを選択します。
ログ保存先フォルダー	指定した共有フォルダーの中に、バックアップ/ 復元のログをテキスト形式で保存します。

5. 自動(スケジュール)設定を行う際は以下の項目を入力します。

スケジュールの有効/無効	「有効」を選択します。
開始時間	開始時刻を設定します。(24時間表示)
バックアップ周期	バックアップ間隔を【毎日】と【毎週】と【毎月】 から選択します。

6. すべての項目を入力後、「適用」をクリックします。
確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。

7. タスクが作成されます。



Step2 タスク情報を外付けハードディスクへダウンロードする

誤ってタスクを削除してしまったり、RAIDが故障してしまう前に、タスクの設定をあらかじめダウンロードしておくこと、万一の際にもアップロードして設定を復元できます。

設定ウインドウ

1. 対象となる外付けハードディスクを選択します。
2. 「ダウンロード」ボタンをクリックします。
3. 確認ダイアログが表示されるので「OK」をクリックします。
4. タスクが外付けハードディスクにダウンロードされます。
(ダウンロードが完了すると、画面左上に「タスク情報をダウンロードしました。」と表示されます。)



Step3 バックアップを実行する

設定ウインドウ

1. アクションボタン「▶」をクリックするとバックアップが実行されます。
バックアップを途中で停止する場合は「□」をクリックしてください。
バックアップの進捗状況および結果については「最終ステータス」で確認できます。
- ※ Step1でスケジュールを有効に設定している場合は自動的にバックアップが開始されますので、手動で実行する必要はありません。
 - ※ バックアップ中はパフォーマンスが低下します。業務時間外の実行を推奨します。
 - ※ タスクを複数作成して同時に実行できますが、バックアップ時間が増えると共に全体のパフォーマンスが低下します。できる限り作業時間をずらしてそれぞれのタスクを実行してください。



Step4 バックアップの完了を確認する

設定ウインドウ

1. バックアップが完了すると「最終ステータス」欄に「バックアップに成功しました。」と表示されます。
- ※ ACL(アクセス権)情報は、共有フォルダと別に保存されます。
その為、バックアップ先(外部ハードディスク内)のデータにACL情報は反映されていませんが、NASにデータを復元した時にはACL情報も同時に復元されます。
 - ※ バックアップ方法(同期/差分)によってACLの復元方法も異なります。
詳しくはP8をご覧ください。



タスクを編集する

スケジュールの有効/無効を切り替えるなど、タスクの設定項目を編集します。

設定ウィンドウ

1. 編集するタスクのチェックボックスにチェックをします。
2. 「編集」をクリックします。

3. タスクの詳細画面が表示されるので、内容を変更して「適用」をクリックします。

確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。

※「タスク名」「ターゲットデバイス」「バックアップ元の共有フォルダー」の項目は編集できません。

4. タスクの変更内容が反映されます。



タスクを削除する

必要なくなったタスクや、誤って作成したタスクを削除します。

※タスクを削除すると、あらかじめタスクをダウンロードしていない場合はそのタスクの復元ができなくなりますのでご注意ください。

設定ウィンドウ

1. 削除するタスクのチェックボックスにチェックをします。
2. 「削除」をクリックします。

3. 確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。

4. タスクが削除されます。



復元の手順

外付けハードディスクにバックアップされたデータをNASの共有フォルダへ復元します。

<RAIDボリュームが正常な場合>

Step1 復元を行うための準備

ホーム

1. NASの管理画面「アプリケーションサーバー」から「モジュール(のインストール)」をクリックします。



ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール(のインストール)

2. 「USB/eSATAスケジュールバックアップモジュール」をクリックします。

※「USB/eSATAスケジュールバックアップモジュール」がクリックできない場合は、アクションボタン「▶」をクリックして、モジュールを有効化してください。



(タスクの作成や編集を行うための新しいウィンドウが開きます。)

設定ウィンドウ

3. バックアップ先の外付けハードディスクがNAS本体へ接続/認識されていること、およびバックアップのタスク情報が残っていることを確認します。

※バックアップを行ったタスクが一覧に表示されていない、もしくは選択できない場合、復元できません。
外付けハードディスクからタスクのアップロードを行ってください。(本紙P.9参照)



ホーム

4. NASの管理画面「ストレージ」から「共有フォルダ」をクリックします。



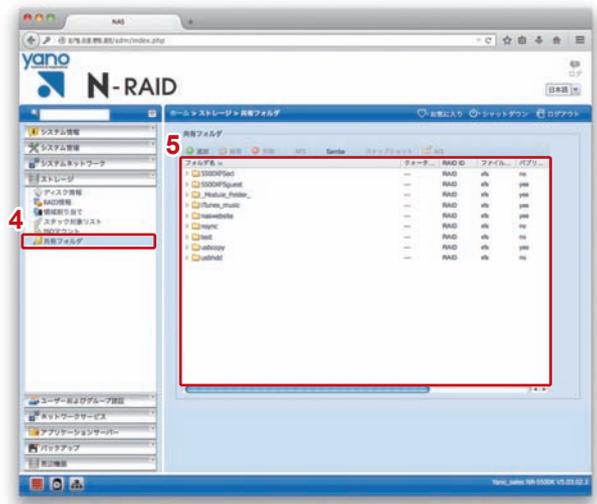
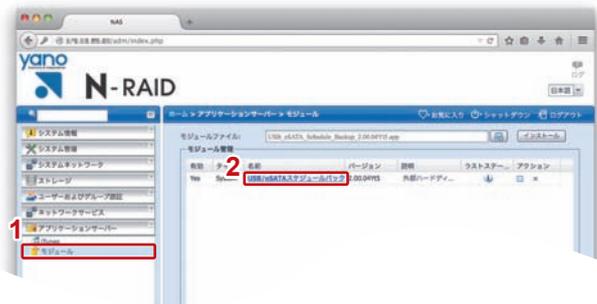
ホーム>ストレージ>共有フォルダ

5. バックアップ元に設定していた共有フォルダが残っているか確認します。共有フォルダが存在しない場合は作成してください。

※バックアップ元に設定していた共有フォルダと同じ名前/パブリック設定にしてください。

※共有フォルダの名前を忘れてしまった場合は、タスクの編集画面から確認できます。

※バックアップ元と同じ名前の共有フォルダがNASに存在しない場合、復元はエラーとなります。



Step2 復元を実行する

設定ウィンドウ

1. 復元するタスクのチェックボックスにチェックをします。
2. 「復元」をクリックします。
3. <a.同期バックアップした共有フォルダーを復元する場合>
「復元先のフォルダーのデータは上書きされます。復元しますか?」というダイアログが表示されるので、問題がないか確認してから「OK」をクリックします。

<b.差分バックアップした共有フォルダーを復元する場合>
復元方法を選択します。キャンセルをクリックすると復元は中止されます。
 - ・復元先の共有フォルダーのACLを反映(再帰)
復元先(NAS側)の共有フォルダーのACLを、復元される全てのファイル/フォルダーに再帰で反映します。
 - ・バックアップされた共有フォルダーのACLを反映(再帰)
最後にバックアップされた時の共有フォルダーのACLを、復元される全てのファイル/フォルダーに再帰で反映します。
4. 復元が開始されます。
※ 復元するファイル数やデータの容量によっては、多くの時間がかかります。
5. 復元が完了すると「最終ステータス」欄に「復元に成功しました」と表示されます。



<b.差分バックアップした共有フォルダーを復元する場合>



Step3 復元されたデータを確認する

1. クライアントPCからNASにアクセスして、共有フォルダーに復元されたデータを確認します。
※ 共有フォルダーへアクセスする方法については本製品のマニュアル(P.45)を参照してください。

<RAIDボリュームが壊れている場合／RAIDボリュームを新規構築した場合>

Step1 復元を行うための準備

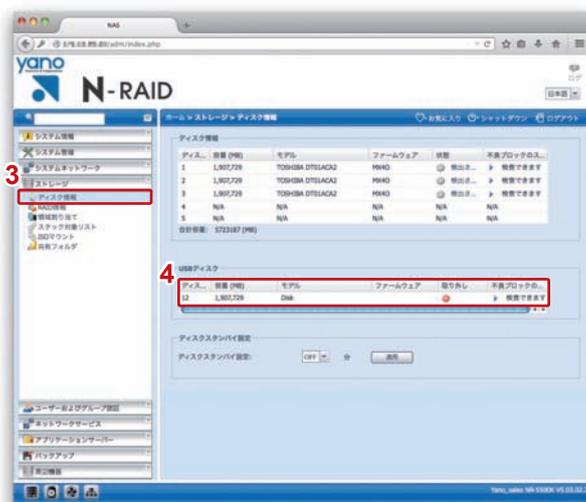
1. NASのRAIDを構築した後に本モジュールをインストールします。
 ※ RAIDの構築方法については、本製品のマニュアル(P.37)をご参照ください。
 ※ モジュールのインストールについては本紙(P.2)をご参照ください。
2. バックアップ先に設定されていた外付けハードディスクをNAS本体に接続します。

ホーム

3. NASの管理画面「ストレージ」から「ディスク」をクリックします。

ホーム>ストレージ>ディスク

4. 2.で接続した外付けハードディスクが、「USBディスク」に表示されているか確認します。



Step2 タスク情報をNASへアップロードする

ホーム

1. 「アプリケーションサーバー」から「モジュール(のインストール)」をクリックします。

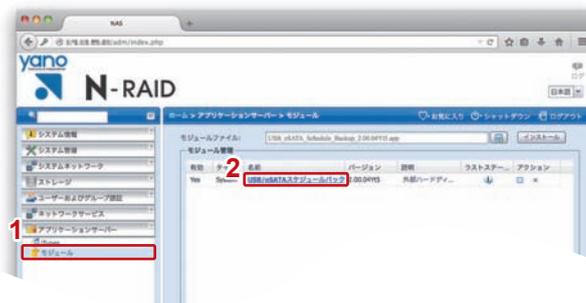
ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール(のインストール)

2. 「USB/eSATAスケジュールバックアップモジュール」をクリックします。
 ※ 「USB/eSATAスケジュールバックアップモジュール」がクリックできない場合は、アクションボタン「▶」をクリックして、モジュールを有効化してください。

(タスクの作成や編集を行うための新しいウィンドウが開きます。)

設定ウィンドウ

3. 対象となる外付けハードディスクを選択します。
4. 「アップロード」ボタンをクリックします。
5. 確認ダイアログが表示されるので「OK」をクリックします。
6. タスクがアップロード(復元)されます。
 (アップロードが完了すると、画面左上に「タスク情報をアップロードしました。」と表示されます。)



Step3 復元先の共有フォルダーを作成する

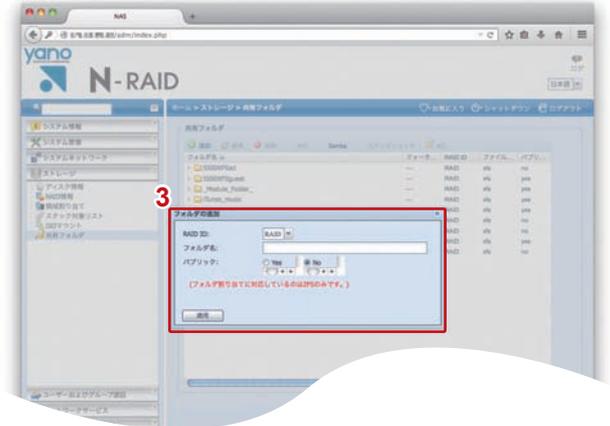
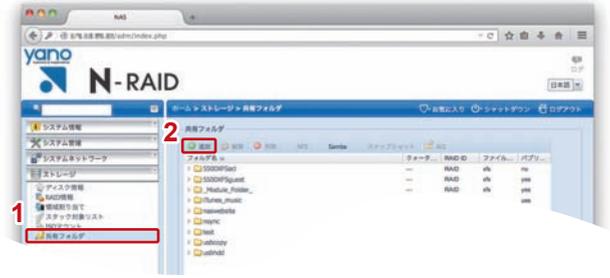
ホーム

1. NASの管理画面「ストレージ」から「共有フォルダ」をクリックします。

ホーム>ストレージ>共有フォルダ

2. 右側の【共有フォルダ】の「追加」をクリックします。
3. バックアップ元に設定していた共有フォルダと同じ名前の共有フォルダを作成します。パブリック設定もバックアップ時と同様に設定します。

※ 共有フォルダの名前を忘れてしまった場合は、アップロードしたタスクの編集画面から確認できます。



Step4 復元を実行する

設定ウインドウ

1. 復元するタスクのチェックボックスにチェックをします。
2. 「復元」をクリックします。
3. <a.同期バックアップした共有フォルダを復元する場合>
「復元先のフォルダのデータは上書きされます。復元しますか?」というダイアログが表示されるので、問題がないか確認してから「OK」をクリックします。

<b.差分バックアップした共有フォルダを復元する場合>
復元方法を選択します。キャンセルをクリックすると復元は中止されます。

- ・復元先の共有フォルダのACLを反映(再帰)
復元先(NAS側)の共有フォルダのACLを、復元される全てのファイル/フォルダに再帰で反映します。

- ・バックアップされた共有フォルダのACLを反映(再帰)
最後にバックアップされた時の共有フォルダのACLを、復元される全てのファイル/フォルダに再帰で反映します。

4. 復元が開始されます。
※ 復元するファイル数やデータの容量によっては、多くの時間がかかります。
5. 復元が完了すると「最終ステータス」欄に「復元に成功しました」と表示されます。



<b.差分バックアップした共有フォルダを復元する場合>



Step5 復元されたデータを確認する

1. クライアントPCからNASにアクセスして、共有フォルダに復元されたデータを確認します。

※ 共有フォルダへアクセスする方法については本製品のマニュアル(P.45)を参照してください。

外付けハードディスクをNASから取り外す

外付けハードディスクをNASから取り外す際は、下記の手順で操作してください。

1. クライアントコンピューターに共有フォルダー「usbhdd」をマウントしていないか確認します。
マウントしている場合は、マウントを解除します。

設定ウインドウ

2. アンマウントする外付けハードディスクを選択します。
3. 「USB/eSATA機器の取り外し」ボタンをクリックします。
4. 確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。
5. 画面左上に「USB/eSATA機器を取り外しました。」と表示されます。

6. 接続解除された外付けハードディスクをNASから取り外します。

※ eSATAの接続を解除した時、admin画面>ストレージ>ディスク情報の画面には接続情報が残っていますが、そのまま取り外して問題ありません。

※ 外付けハードディスクを再度NASに接続する場合は、取り外し後30秒以上経過してから接続してください。(接続解除が反映される前に再度接続すると、正常に認識されません。)

※ 外付けハードディスクがモジュール画面に表示されない場合はNAS本体を再起動してください。



バックアップしたデータの確認方法について

直接PCに接続すると、文字化けやリソースフォークが欠けてファイルの中身が正常に見えない可能性があります。緊急の場合を除き、NASに接続したまま共有フォルダーとしてデータにアクセスしてください。

注意事項

- ・ バックアップ方法を「同期」にして実行した場合、不要データを消去する時間が30分を超えるとタイムアウトエラーで終了します。(タイムアウトの際は、最新ステータス欄に「ターゲットデバイスが存在しません。」と表示されます)
- ・ バックアップ元となる共有フォルダー内のデータをリネーム(名前変更)した場合、バックアップ実行時に、バックアップ先のリネーム前のデータが一旦削除してから新規にリネーム後のデータが作成されます。そのため、処理に非常に多くの時間がかかりますのでご注意ください。
- ・ リストア実行時、リストア先に重複データが存在した場合においても、全てのファイルのACLが書き換えられます。ACLのリストア時間が短縮されることはありませんので、ご注意ください。
- ・ バックアップ中に次のスケジュール時刻になった場合、次のスケジュールはスキップされ、実行中のバックアップが優先されます。